
ブレイク

きよこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ブレイク

【Nコード】
N5606C

【作者名】
きよこ

【あらすじ】
あたしは想像する。世界が壊れていく様を。

あたしは想像する。

この世界が壊れる様を。

三階のこの教室からは、渋滞した道路や何も無い野原の先に、駅の周りを囲むビル群が見える。

あたしは窓からそれを眺めて、いつも想像するんだ。

道路が沈み、車が落ちていく姿を。

野原が割れ、雷のような模様が地面に刻まれる姿を。

ビルがガラガラと崩壊し、跡形も無くなる姿を。

あたしが思い描く崩壊の風景に、人はいない。あたしは人が死んでほしいからこんな想像をするんじゃない。あたしが生きているこの世界が大嫌いだから、無性に壊したくなるんだ。

あたしには世界を壊す大魔王みたいな力はないし、それが出来るような権力だつて無い。だから想像する。想像の世界ではあたしだけが王様だ。何をしても咎めるものなんていない。自由だ。

朝露を含んだ葉が、太陽の光で輝く。鳴り止まない蝉時雨。

蝉時雨。雨のような蝉の声。綺麗な言葉だ。

青く澄んだ空に広がる入道雲は本当に真っ白。

むせ返るような湿気の渦が取り巻いているのに、光は白く、白く。どこまでも綺麗。

時折吹く風が、汗でじっとりとしたシャツをぬぐってゆく。気持ちいい。

目をつぶり、想像を繰り返す。

コンクリートの塊がガリりと落ち、アスファルトの地面を叩きつける。窓ガラスは割れ、光の粒のように輝きながら降り注ぐ。

崩れ行く世界。壊れていく世界。何もかもが無くなっていく世界。

目を開けると、目の前には書きかけのプリントがあった。補習授業の最中だったことを思い出す。

勉強することに何の意味があるんだろう。このプリントに描かれた暗号みたいな数字の羅列が、あたしのこれからの人生に役立つのだろうか。

短くため息をつき、プリント用紙に数字を並べてゆく。あたしに必要があるのが無かろうが、これをどうにかしなければ進級出来ないんだ。やるしかない。

チャイムの音がようやく鳴る。教師が出て行く姿を見送り、あたしはもう一度目をつぶった。

世界はどうして今の形になったのだろうか。人間はどんな経緯をたどり、猿から進化していったのだろうか。何万年、何億年の長い月日は想像をはるかに超えて、あたしには想像すらできない。

「帰らねえの？」

頭上の声を無視しようと思ったけれど、あたしは目を開け、彼を睨んでいた。

「帰るよ」

「まさかお前が補習に出てるとはな。中学までは頭良かったじゃん」

同じ中学だった、この男。中学時代はイモだったのに、今はそれなりに格好つけてる。腰ではいたズボン。逆立った茶髪。けれど、昔の名残を感じる、純粹さを湛える黒い瞳。

「勉強なんてつまらない」

「優等生だったのに」

「あたしは優等生じゃない。くそつくらえだ。世の中全部」

「なんでそう思うの」

なんで？

茶髪の隙間からのぞく黒い瞳に、澄み切った青い空が映っていた。

「あたし、原始人に生まれたかった」

彼はブハツと吹きだした。あたしの机に彼の唾が一粒落ちた。彼は「悪い」と言っただけを大きな手で拭い、「なんで」とまた笑った。

「何も考えないで生きられるじゃん。食うか寝るかしか無いんだよ」

「原始人には原始人なりの悩みがあるだろ」

「例えば？」

「イノシシを獲るには、どこに行ったらいいか、とか」

そんなの悩みのうちに入らない。あたしは口を尖らせ、机に突っ伏した。無機物は熱をもたず、熱に浮かされたこの体には心地いい。

「何か、悩みでもあんの？」

「……特に無い」

「じゃあ、なんでそんなお疲れ気味？」

うんこ座りした彼と視線が合う。空の青を映していた瞳に、あたしが映っていた。

「そういう時ってない？ 特に何も無い人生が嫌になるの。生きて

いる理由なんていらなと思うけど、生きてるって実感がほしい。あたしには何も無くて、何も悩みようが無くて、ただ息をしているだけ。同じような毎日を繰り返してるだけなんだよ。なんでこうなんだろ。だから」

だから想像する。あたしが壊れていく姿なんて想像したくないから。世界が壊れていく姿を想像する。あたしが壊れるのが嫌だから、世界が壊れてしまえばいい。

崩壊して瓦解して、すべてが無に帰っていったら、あたしに変化は起きるのだろうか。日常が壊れてなくなったら、あたしはなにを実感するのだろうか。

「じゃ、悩みをひとつあげようか」
「なに？」

立ち上がる彼の白いシャツがまぶしい。

いつの間にか教室には誰もいない。あたしと彼だけが取り残された、狭い教室。掲示板に貼られた白い紙が風でハタハタと音を立てていた。

「俺と付き合わん？」

「は？」

「優等生が悩んでる姿に惚れちゃった」

彼はいたずらっ子みたいな笑みを浮かべ、あたしに向かって手を伸ばしていた。

変わらない日常が壊れていく。

沈むゆく道路。野原を裂く地割れ。ガラガラと崩壊するビル。まぶたの裏で、確かに世界が崩壊していった。

「考えとくよ」

あたしは彼の手を取り、立ち上がる。彼は変わらない純粹な黒い瞳を輝かせ、あたしの手を強く握りしめた。

世界が壊れてゆく。日常が破壊される。

彼の持つとんでもない破壊力は、あたしをあっという間に想像の世界から連れ出した。

なんだ。意外と人間って単純なんだな。

「帰ろうか」

「一緒に？」

「しょうがないからね」

明日からはどんな想像をしよう。
きっと世界はもう破壊できない。

（後書き）

お読みいただき、ありがとうございました。

変わらない毎日が続くと、江戸時代とか別の時代に行きたくありません。現実逃避です（笑）

この主人公のように特に悩みが無い時ほど、現実逃避したくなるような気がします。

読んでくださった皆様は、どうですか？

ご意見ご感想、お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5606c/>

ブレイク

2010年10月28日07時24分発行